

申26号 2018年度夏季手当 第2回交渉①

2017年度決算は増収増益、営業収益・運輸収入・当期純利益は過去最高実績!

好調な業績は、安全・安定輸送を支える
現場組合員の努力の結果であることを確認!

- 会社** ・増収増益の業績は判断要素の一つだが、安定的な配分も考えていく。
・昨年は2.91ヶ月で平均支給額は987,000円で十分に高い。
- ・5年連続でベアを行い、エルダー制度改正で110億円の人権費増を見込んでいる。
 - ・人への投資も必要だが、一方で設備改修や安全投資も必要だ、
 - ・JR他社と比べて、支給月数と支給額は十分に遜色ない。
 - ・水平分業して全体でコスト管理している。単純に業務委託費を上げる事はできないが、全体でのバランスをとっていきたい。
 - ・好業績との利益配分の循環が社員のモチベーション向上に寄与することは認める。
 - ・世の中の情勢も含めて、議論していく。労使議論の上で決定していききたい。

- 組合** ・JR東日本の成長には、人材育成と優秀な人材確保が極めて重要だ。人への投資は必要不可欠だ。世間と比べて遜色ないものとするべきだ。
- ・定期収入・定期外収入ともに増加している。会社の見通しは物件費増で減益となる見込みだ。持続的成長は、組合員の努力、協力が必要で、公正な成果配分をすべきだ。
 - ・株主配当は通期で10円増の150円とする予定が示された。社員・組合員が納得できる成果配分がなければ、株主だけを優遇した利益配分となる。
 - ・労働生産性と付加価値は、大企業平均をはるかに超える高水準だ。
 - ・職場から「なぜ突出してはいけないのか」と疑問の声がある。内部留保に積み増すのではなく、社員に還元すべきだ。
 - ・会社の懸念材料を全てクリアしての決算だ。ベアは手当の増額も織り込み済みだ。
 - ・5万円定額は、中間層と上位職および年齢が高い人との格差を少しでも是正するものだ。公平感・納得感を持てるようにすべきだ。
 - ・グループで働く人が働きがいを感じられるようにしていくべきだ。
 - ・期末決算からも支払い能力は十分にある。日本一の鉄道会社として、経済の好循環という社会的役割・責務を満額回答で果たすべきだ。